

# スローテンポ通信

第 4 号

2017年4月28日

発行：一般社団法人スローテンポ協会  
〒329-0403 栃木県下野市医大前 3-7-4

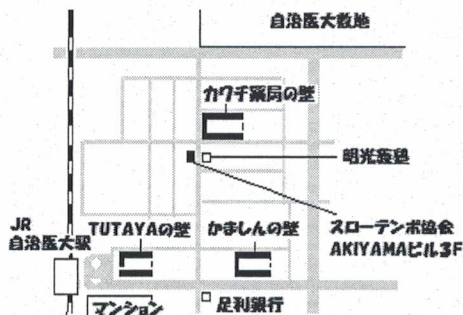
☎ 0285-35-2888

Eメール usagimokamemo@gmail.com

ブログ『うさぎもかめも』

<http://usagimokamemo.blog.fc2.com/>

## スローテンポ協会へのアクセス



JR 自治医大駅東口から自治医大方向に徒歩5分。車でお越しの方は前もってお電話ください。駐車場をご案内します。



## 文章教室のご案内

伝えたいことを正確に伝える手法の一つが文章です。

文章は紙と鉛筆さえあればよいのですから手っ取り早く、間違いさえなければ的確に伝えることができます。昔から喧嘩の仲直りや、誤解を解くために使われてきたのも文章です。ときには直接対話する以上に、伝えたいことが伝えられます。

プレゼントを贈るときも、メッセージを添えたほうが、気持ちが伝わります。企業やお役所の記録も、学术论文も、歴史の記録も文章で残されます。

あなたも普段から言いたいことを文章にしてみませんか。添削を中心に、言いたいことが正確に伝えられるようお手伝いします。

受講者に合わせますが、1000文字程度の文章を、4回で完成させることが目標です。手書きでも、ワープロ、パソコンの持ち込みも可能です。

毎週木曜日午後3時～5時、場所はスローテンポ協会、参加費は1回500円。お問い合わせは当協会まで。



## ☆ 懇話会へご招待

毎水曜日午後3時～5時、スローテンポ協会懇話会を開いています。

5月のテーマは、特に決めません。自由に放談してください。

参加費無料、話をしたい方も、ただ聞きたい方も、高齢者も若者も、歓迎です。

よめ・しゅうとめ



## 嫁・姑のいい話

懇話会は「地域活性化」のテーマで話し合うことになっていたのですが、自由に話を始めると、どんどん話が展開し、話題豊富で実りの多い会になっています。最近の懇話会であった話題の中から、とてもいいお話をひとつ紹介します。

参加者のお一人が紹介してくれました。

あるお寺の集まりに出たときに、持ち寄りのごちそうを分け合って食べながら、高齢女性が自分の体験話をしてくれました。

女性が昭和30年頃、栃木の農家に嫁に来たばかりのことです。

朝から晩まで畑仕事をし、それから食事づくりや片付け、家事の全てをやらなければならないので、嫁の仕事は大変でした。

親族におめでたいことがあって、お祝いの赤飯を炊くことになりました。赤飯づくりは準備に手間がかかります。その日は畑仕事の疲れがなくて、ちょっとした気のゆるみから、うっかり空焚きをやってしまいました。

蒸し器も釜もだめになってしまいました。「ああ、どうしよう。お姑さんになんて言われるか分からない」

どうにもできず、正直に報告しました。そのときお姑さんが言いました。「こんな間違いは2度は起こさないものだよ。大丈夫、がんばりなさい。」

胸のつかえがとれて、涙が出るほどうれしかったことを覚えています。

それからはその言葉を支えに踏ん張りとおし、どんな困難にぶちあたっても逃げ出したいと思うこ

## ☆ 人材募集中

スローテンポ協会は誰もが働き、誰もが活躍することをめざしています。

## ☆ スローテンポ会員

スローテンポ通信やイベント、新企画などの案内がいち早く届きます。

会費は年1000円(年度途中の入退会費は月当たり100円)。

とはありませんでした。今でもお姑さんには感謝しています。というお話でした。

私(筆者)の母も、姑さんから良くされたと言っています。母は現在94歳で、自ら農作業をこなす現役です。

母の姑さんは、人のお世話をすることが大好きでした。自分で情報を集めては見合い話を持って回り、まとめた数は村の語り草になるほどです。

そんな姑さんでしたので、農家の仕事や家事は、全て母に任せて、一切口を出しませんでした。

姑さんが自分に役割を与えてくれたのだ、と母は今も感謝しています。

嫁・姑の話には良い話もありますが、近頃は悪い話の方が断然多いようです。私の周囲にいる友人たちは、いつもお姑さんのことを悪く言っています。

私自身はお姑さんと別々の暮らしだったので、嫁姑の微妙な心理は分かりません。人間関係は複雑ですから、人によって抱く思いにずいぶん温度差があるように感じます。

昔から嫁姑は対立し合うのがお決まりです。以前は姑が息子を味方に付けて嫁をいびり、核家族の現代は、嫁、姑という言葉すら否定され、息子とその妻が一緒になって高齢になった親をいびる光景が定番です。

いずれもいびっているのではなく、説教や指導ということになっています。

どちらが正しいとは言いませんが、弱い方を応援したくなります。

それはともあれ、時代が変わっても、家族は平和で仲良く暮らしたいものです。そのためにもいい話を語り継いでいきたいと思っています。